

旅立ち

社会福祉法人しらとり会
当事者通信 (NO. 106)
令和6 (2024) 年7月1日発行

今回は、3名の方からの投稿です。

皆さん、白血病の友人に会った事がありますか？46年も前の話だけど悲しい話です。何せ相手は1年ぐらいで死ぬのですから、たまったものではありません。人類は、白血病を克服できるか？僕はだいぶよくなったと感じています。残されたものは、ただ悲しいのです。高校の時、人の死に直面し、大学に入って卒業はしたものの統合失調症になりました。そして40年が経ちました。こんな事を書くとは悲劇のヒーローみたいですが、本人は大分忘れた記憶になっていました。皆さん時間は平等に経ちます。今を一生懸命生きましょう。

(Y. Y.)



- 東広島市の住民はお金をもらえる福祉には偏見を持たない。
- コロナ給付金は歓迎される感染症給付金で誰かコロナになってくれと東広島市民は願ったものだ。
- 子ども手当は親の見栄で親の小遣いに消えて一向に子どもの為に使われない。
- 成人するまでは当該子どもに管理権も使用権もない。
- 強制徴収の決まった養育費同様差押できる財産がなければ意味がない。親が使ってしまったら全く意味がない。
- 日本政府が馬鹿だから地方政府も馬鹿だ。
- 政策が現場で転換され人の金をあてにする馬鹿国民が社会保障費膨張唯一原因。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

投稿記事は、オリジナルのイラスト、投稿者の思いです。
読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。
次回の締切は、7月16日(火)です。